

交流地区の復興応援



箭田地区の住民らに対する応援メッセージを書き込む子どもたち=福井市の四ツ井公園で

西日本豪雨で甚大な被害を受けた岡山県倉敷市真備町の箭田地区を支援しようと、同地区と交流を続ける福井市日之出地区の住民らが義援金を集めている。二十九日の日之出地区の夏祭りでは、大きな布に住民らが応援メッセージをつづった。
(小川祥)

福井市日之出地区

豪雨義援金集め

岡山県箭田へメッセージも

日之出地区と箭田地区は、二〇〇四年に福井市で開かれた「まちづくり全国交流大会」をきっかけに交流が始まった。住民が年度ごとに交互に訪問し、箭田地区の小中学生が県内を訪れ、日之出地区の小中学生とスキーを楽しむなど関係を深めてきた。

ニュースで豪雨災害を知った「ひのでまちづくり協議会」の山田年克さん(五五)は、七日に箭田地区の友人に連絡。音信不通だったが、一週間後に「小学校に避難している」と連絡が来て、無事を確認できた。日之出公民館の前田誠一郎館長らと話し合い、「少しでも復興に役立ててもらおう」と、公民館に募金箱を設置して義援金を集めることにした。

二十九日に日之出公民館前の四ツ井公園で開かれた夏祭りでは、寄せ書きのブースを設置。多くの参加者が縦一列、横二列の白い布に「熱中症に気を付けて頑張って」「ファイト！」などと書き込んだ。今年二月に箭田地区の子どもたちとスキーで交流をした成和中一年の山田陽菜乃さん(三三)は「豪雨のニュースを聞いて本当に心配だった。また笑ってスキーができるといいな」と気遣っていた。真備町では四分の一が浸水したとされ、箭田地区の住民も多くが避難生活を強いられている。義援金と応援メッセージは、被災地が落ち着いた頃、箭田地区に持って行く予定。山田さんは「大変なときはお互いさま。少しでも復興の助けになれば」と話している。